

# 「松原桜荘園」の開発計画

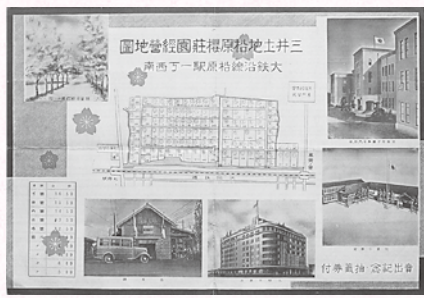
西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)



▲松原中学校の桜校門側に新たに桜が植えられている。



▲昭和34年の松原中学校と更池更池沿いに桜が見える(松原中学校「創立50周年記念誌」)。



▲「松原桜荘園住宅地分譲」のチラシ(右:表紙、左:中面) 松本弘氏蔵



## 新堂「松原の千本桜」の名所 戦前、正楽寺や松原中学の地

今年も桜の季節になりました。市内でも、天美西の西除川沿い今池水みらいセンターや柴垣の柴籬住宅桜通りなど、桜の名所としてよく知られています。

ところで、今ではほとんど忘れられています。戦前、桜の名所が新堂にもありました。その場所は、現在の新堂一丁目にあたります。戦後に建てられた松原中学校のグラウンドから、国道三〇九号線までに至る地域です。グラウンド北側に水をたたえる更池沿いや、今では松原市医師会や住宅地が建ち並ぶ東側の水路沿いを中心に一面の桜並木が見事でした。

戦前、一面の田畑であったこの地に、住宅の開発計画が持ちあがりました。昭和十七年(一九四二)、大阪鉄道(現在の近鉄)は沿線の住宅開発を土地会社と協力しながら、積極的に進めていくようになりました。南大阪線沿いには、すでに高見の里や河内天美駅近くで荘園が建設されていました。昭和十七年には汐の宮(河内長野市)や高鷲(羽曳野市)、矢田(大阪市東住吉区)などとともに、松原でも住宅地の建設を計画したのです。

その地は、河内松原駅と高見ノ里駅間の南側を占める広範な面積

で、その一画が桜並木がつらなる新堂一丁目でした。桜の名所であったことから、土地会社は「松原の千本桜」とか、「松原桜荘園」として売り出そうとしました。

上の写真は、「松原桜荘園住宅地分譲」のチラシです。右側は表紙で、「大鉄沿線 新名所松原の千本桜」とうたっています。発売元は三井土地営業所で、大阪市港区夕風橋にありました。水路沿いに咲き誇る桜並木の前にコテージ風の住宅が描かれています。

左側はチラシの中面です。「三井土地松原桜荘園経営地図」「大鉄沿線松原駅一丁西南」と書かれています。左上部には、桜並木の風景を載せ、「経営地桜荘園の一部」と紹介しています。中央上部はイ号からホ号までの区画を示しています。東側は当時、松原駅前にあった松原町役場や松原小学校前の西側水路まで、西側は高見ノ里駅や河合の大阪女子薬科専門学校(現大阪薬科大学、移転後は阪南大学高校)の東側まで計画されています。北側は、南大阪線南側の細長い更池までです。南側は、現在、松原中学校と背中あわせに建つ生野高校あたりまで広がっています。

区画図を取り囲むように、右側上には大阪女子薬学専門学校、下には松原小学校の写真が見られます。中央右下には阿部野橋に昭和十二年

(一九三七)に営業を開始した大鉄百貨店(現近鉄百貨店)を入れ、左下には大鉄バス(現近鉄バス)が停まる河内松原駅を載せています。河内松原駅駅舎は半世紀ほど前までは南側にはなく、北側だけしかありませんでした。左下の表は、イ号からホ号と番外の売り出し金額を示しています。

計画は、昭和十八年(一九四三)から動き出しました。当時の田園風景の地には、昭和十三年(一九三八)に、大阪の今宮(現西成区)にあった浄土真宗本願寺派の正楽寺が一千坪という広大な土地を所有していました。現在、正楽寺は国道三〇九号線東側に建っていますが、今の本堂や庫裏が建てられたのは、正式に今宮から新堂に移転した昭和四十六年(一九七二)のことで、戦時中や戦後は、今宮の寺から移した檀家の墓石と管理小屋が建つだけでした。

現住職の安満勝弘さんの祖父勝憲前々住職が移したのですが、正楽寺には昭和十八年八月に調べられた水野土木測量事務所(大阪市天王寺区真法院町)による測量見取図や三井土地の書類などが残されています。しかし結局、桜荘園建設は計画だけに終わり、実現しませんでした。昭和三十年前後、中学校が建つて少なくなつたものの桜並木は残り、私も花見をしたことを覚えていますが、次号は、正楽寺の歴史を振りかえります。